



書
評

プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版

監訳：坂井建雄，河田光博

A4変型・頁552 2014年 定価：本体11,000円＋税
[ISBN978-4-260-01441-0] 医学書院刊

＜書評者＞ 杉本哲夫（関西医科大学大学院教授・脳構築学）

洗練された美しい図を読ませる内容

『プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版』が出版された。本書は洗練された美しい解剖図と読ませる内容を特色としている。初版にはすでに高い評価が与えられており，第2版はその伝統を見事に引き継いだ第一級のアトラスといえる。

本書は初版に比べると内容がさらに充実し，頭頸部と脳の解剖実習にも，知識の整理にも，これ1冊で十分賄えるアトラスになった。訳者序に紹介されたとおり，旧版の頸部の内容が頭部と合体し，頭頸部として新しく編成された。頭頸部のセクションに新しく組み込まれた内容をみると，そのすべてが医学教育のグローバルスタンダード基準をクリアしており，これからの医学教育に必須の項目といっても過言ではない。

まず触診可能な骨指標（体表解剖）が加わった。頭部と頸部の診察に役立つ部位が手際よく一覧にまとめられており，臨床的に重要な構造と体表にある三角との対応関係が示されている。新たに整理された図表は頭頸部の診察に役立つ。そして，顔の発生と口蓋裂の図解が新しく加えられた。ここでも読ませる部分とのバランスが絶妙である。甲状腺の解説ページにも臨床画像検査の図解が加わった。

頸椎の各部分骨と靱帯もここに詳しく掲載された。それに加えて環椎後頭関節と環軸関節，さらには鉤椎

関節に関するページも整備された。頭蓋底に開口している孔は骨学や解剖実習の初心者にとって手ごわい学習対象である。学習の際，頭蓋底を通るもの（神経，脈管など）をリアルに描画した何枚かの図は格段の理解を促すよう配慮されているので，彼らにとって最高の援軍になるに違いない。

咽頭周囲の間隙は病変の進展を理解するうえでも大変重要な構造であり，解剖実習などで必ず確認すべき箇所の一つである。本書では数ページを割いてユニークな図を巧みにレイアウトすることにより，ていねいな解説を提供している。

神経解剖のまとめとして，本書に新しく「中枢神経系：要約，回路図，まとめの表」が追加された。このセクションは神経解剖の講義・実習を一通り仕上げた学生諸氏や若い医師にとって，壮大な体系を短時間で復習するのにきわめて役立つものである。ボリュームあるその中身を飾る回路図や表はもちろんプロメテウス伝統の美しさをもって完成されており，見開きページで読み切りのスタイルを保っている。

本書は本格的に勉強するという目的に確実に応じてくれる良書である。医学生，医師をはじめ医療系学部学生や医療に従事される各位に幅広く行き渡り，長く愛されることを期待し首途を祝福したい。